

特別支援学級における 個に応じた学びの場や 環境を整えた授業づくり

自立活動の内容をもとに個の特性の分析を生かして

テーマ設定の理由

特別支援学級には複数の子供がいて、
それぞれの特性がある。

これまで自立活動について研修してきている。

個の特性を理解して授業をつくる。

一人一人の子供の自己肯定感や学習意欲を
高めるだろう。

授業づくりの手立て



パターン化し、内容と時間を可視化する。



一人一人の実態を把握し、その子にあった教材の選択・作成をする。



優位性、感覚、こだわりなど、障害の状況や発達段階に配慮する。

研究の内容

- 仮説I
ヘルプシートを活用することで、個の特性理解ができるだろう。



- 方法
 1. ヘルプシートを1人分ずつチェックする。
 2. リサーチシートを作成する。

研究の内容

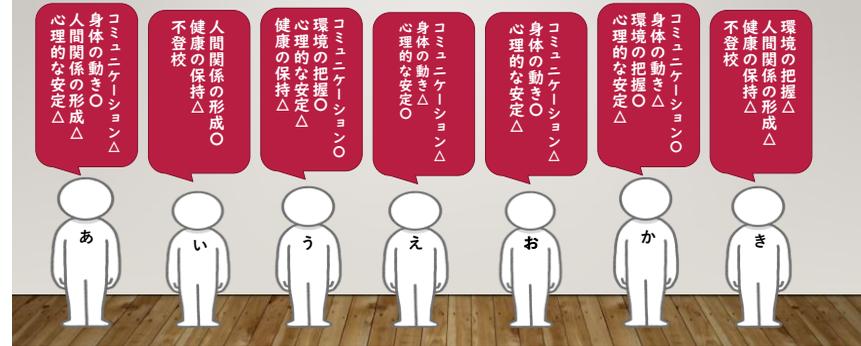
・仮説2

目標や指導を具体的に検討して実践をすることで、子供は成功体験を積み重ねて、学習意欲や自己肯定感を高められるだろう。

・方法

1. 対象児を決め、目標や具体的な指導・支援の方法を考える。
2. 「97項目のチェックリスト」を活用して、困難さを定期的に確認する。

令和4年度 4年生男子4名・3年生男子3名



個に応じた学び → 個人に焦点を当てる

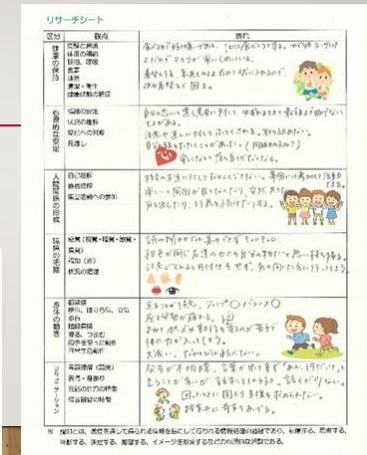


・実態

	できること・得意なこと	難しいこと・苦手なこと
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・支度は一人でできる。 ・自分の伝えたいことは言える。 ・相手の気持ちも受け入れられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・素直に受け入れること△ ・ボタンや服の裾をしまう動作△ ・陽気なときは言葉でない声を出す。
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・草取りなどの農作業が好き。 ・集中して取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名の形と音が定着しない。 ・話す言葉が不明瞭。
身体面	<ul style="list-style-type: none"> ・俊敏で、走ることが得意 ・跳躍力もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟さが低く、体に力が入る。 ・注意がそれる。

個人の分析を進める

- ・ヘルプシート
- リサーチシート
- プランシート



2 音の明確に平仮名が書ける。
 3 音を増やす。

1 音の発音	必要の発音	人音関係の発音	読書の発音	音の創造	コミュニケーション
① 音の発音の明確化 ・音の発音の明確化 ・音の発音の明確化 ・音の発音の明確化					

3
 指導内容
 手立て
 指導要領

これまでの取り組みと様子 (主に国語での活動)



- 11月
平仮名表を50音順に並べる。
- 12分→6分〇
ばらばら
→並べる〇
→順に読む〇
- 2学期はほぼ毎日
→3学期は時折

- 「あいうえおのえほん」を音読する。
- 音を確認しながら読む
→言葉として捉えられない
→活動に対して少し嫌そう
- 「これは何?」「〇〇はどれ?」
→答えられない



- 1月
文字の形を捉えられるよう砂文字カードをなぞる。
(ざらざらした感触で形を覚える)
- 書き順により色分け
始筆にはラインストーン
→書き順の定着△

言われた音のカードを取る。

- 形を選ぶ〇
- 同じ学級の児童と一緒に取り組む◎
- 取ったカード
→指でなぞり、書き順と形を確認△




- 2月
問題を自分で読む → 答えを選ぶ → 答える。
- さらに…
- 問題に出てきた、イラストが何かを答える。
- 答えを平仮名カードで並べる。
- 並び替えクイズ

教科書に合わせてシートを作成






2月 ケース会議

なのはな相談室、放課後デイサービス、保護者

- それぞれの様子や取組など情報を共有
- 書き写す〇 ⇄ 言葉理解△
 - ただの作業
 - 並び替えや文字を選ぶなど工夫のある問題
- 放デイで取り組んでいるプリント
 - 学校や他の放デイも似た問題を



- フォントや向きなどが異なる
 - 初めての言葉のように読む
 - 言葉をかたまりとして捉えたい
 - 言葉カードを読む
 - 学校では「教科の名称」

2月

文字の並び替えアプリで取り組む。

- ヒント→読まない
- 問題に注目→答える
- 3文字は簡単
 - 生活の中でなじみのないもの△



3月

平仮名一文字のカード取り

→いろはカルタに挑戦する。



→カードの枚数を数える学習へ〇

(合科的学習)



令和5年度 2年生男子1名・4年生男子4名



4月 片仮名の学習を始める。

- 身近な野菜の名前や好きな虫の名前のイラスト
 - 平仮名で読み書き
 - 片仮名で読み書き
- 絵を見て文字を選ぶこと〇
 - 文字だけを見て答える△



国旗カルタに取り組む。

- 読み札そのまま
 - 国の名前だけを読むときも
- 「イ」の付く国が多い
 - 間違えやすい
 - 短い名前は確実に取る〇
- 読み手に立候補
 - 読むことに挑戦〇



- 4月 シール貼り
 - 自分で選ぶ
 - 丸の中に貼る○
- お金の学習
 - 位の理解
 - 数量や表し方・数え方を確認
- 読書
 - 友達といっしょに絵探しの本を楽しむ。
 - 文字を指で追いながら自分で本を読む。





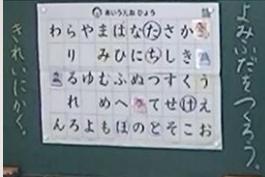

- 6月 百玉そろばん→点つなぎ
 - 数唱→表記
 - 名称も確認 (合科的学習)
- 片仮名表示
 - 3年時に使用した平仮名カードに、片仮名を貼る。
 - 読みも確認。
 - 50音順に並べる。
- 朝読書
 




- 6月 濁音・半濁音・拗音の発音練習
 - 表を活用
 - 1文字ずつ縦に順に読む
 - 単語(イラスト付き)を読む
 - 順不同に指された文字を読む
 - イラストを隠して単語を読む
 - 課題が明らかに
- 9月 クイズ(書き取り)
 - 課題に即した絵カードを用意
 - 絵カードを見て答える。
 - 平仮名や片仮名
 - 漢字に発展
 - ホワイトボードを使用。




- 9月 カルタ作り(書く学習)
 - 読み札の頭文字をチェックしながら進める。
 - 文字を選んでから言葉を探す。
 - 初めの言葉の後の文を考える。
 - 完成していく喜び、できあがった達成感
 - ゲームの楽しみなどを実感



拡大した50音表を黒板に貼る



社会科見学

「これは、なんて書いてある？」
と聞いてメモを取る。

展示資料の説明

- 教員に質問
- 一生懸命書こうとする
- 音と文字が一致してきた



交流会のお知らせ

練習

- 読み方に困る
- 友達に聞く
- 読めた

本番

- 練習と同様でよいことを伝えておく
- できた○



◎意欲的に取り組む。
◎指摘や支援を素直に受け入れる。
◎集中して学習を進められる。

課題

「読む」の改善について

- ・項目までは達していない。
- 文字と音が一致してきた。
- 言葉のまとまりが分かってきた。



読む	記憶・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて出てきた語や音段あまり使わない語などを読み間違える ・音読、黙読が遅い(すらすら読めない) ・音読はできてても内容を理解していないことがある 	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	弁別・統合	<ul style="list-style-type: none"> ・文中の語句や行を抜かしたり、または繰り返し読んだりする ・文字を抜かしたり、余分な文字を加えて読んでしまう ・適切でない(意味の通らない)所で区切って読む(例:「歩いて います」⇒「歩いてい ます」) ・似たような形の文字を間違えて読む(例:「石」⇒「右」) ・語尾や文末を作って読んでしまう 	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

仮説2について

- ・実践の適切さの判断の難しさ
活動や方法の善し悪し、継続や変更などを見極めが困難



研究にかかわらず

- ・複数人の特性に配慮した授業づくりが必要
→引き継ぎや見取り、教職員間の共有を大切に。
- ・個や集団に合わせた学習の進め方、教材づくりにおいて手探り
→根拠と試行錯誤が大事。



**終わりに・・・
通常学級での支援**

だれもが分かる手立て①

- 穴埋めや教科書問題の難易度を下げたワークシートの作成。

黒板にワークシートの拡大を貼ることで、手元のプリントと同じ所を書いたり、確認したりできる。

筆算が正しくできるように枠を記載

物差して表を書く作業を省略

色で分けて視覚的な支援を

だれもが分かる手立て②

- 今日の予定や次の授業準備、手順などを掲示。

黒板に貼ることで自分で（自分たちで）行動することができる。

言葉＋イラスト
視覚的な支援を

だれもが分かる手立て③＋個別の手立て

- 宿題の手本を作成。
→毎週全員に配付。

ノートのマス目に合わせたもの。【全員】

文字数を減らし、単語の漢字を横に書いていく。（なぞり＋書く）【個別】
→やる気の向上と正しい字形の定着。

手本と同じ物（文字数）を薄い色でなぞり書きをする。【個別】
→文（言葉）や正しい字形の定着。

文字数を減らし、単語の漢字をなぞる。読み仮名は自分で書く。【個別】
→取り組む習慣や正しい字形の定着。

個別の手立て

- 書くことが苦手な児童に対して

部分ごと異なる色のペンで下書きをする。

漢字ドリルは練習する文字数を減らす。薄い色のペンでなぞり下書きをする。

ノートの板書が難しい児童に、書く位置が分かりやすく書く文字数を減らしたシートを渡す。
→書き終えたらノートに貼る。